

たたかう労働組合・回転寿司ユニオンに総結集して、労使関係正常化闘争を完遂しよう！

労使関係の正常化をめざして

編集・発行：回転寿司ユニオン

5

2025/11/21

企業内組合員たるエリマネージャーによる不当労働行為発言問題 企業内組合、回転寿司ユニオンからの申入れに一切返答せず！

今月7日付の前号で、東京都内の店舗において、企業内組合員たるエリアマネージャー（AM；数店舗を統括する役職）らが回転寿司ユニオンの組合員に「あそこは会社の組合ではない」「なんでそんなところに（加入して、問題の解決を）頼んでいるんですか」などと発言したことを明らかにした。

回転寿司ユニオンでは、本件を受けて、会社に抗議書を送付することは当然のこと、当該発言をしたのがいずれも職制たる企業内組合員であること、「会社の組合」云々は、企業内組合との対比として出てきた言葉と考えられるところから、企業内組合にも、文書をもって以下の申入れを行ない、同12日までに回答するよう求めた。

ところが、回答期限から1週間以上が経過した本日時点でも、企業内組合からは何らの回答も連絡もない。ひっこう、「あそこは『会社の組合』ではない外部の集団だから、相手にするものではないね」ということだろうか。

このほかにも、世間を見渡してみると、右派組合や御用組合が、使用者などとともに、たたかう労働組合の存在自体を無視・黙殺する例は、枚挙にいとまがない。国・地方レベルでいうと、長年多くの労働委員会や最賃審議会で、実際の勢力とは無関係に、すべての労働者委員が「連合」系で占められ続けてきていた。あるいは、とくに労戦の右翼的再編の渦中、全金などの総評傘下の産別から一部が分裂して別組合を立ち上げ、会社も分裂組合を「唯一の交渉団体」とか「全金はすでに存在しない」などとうそぶいて組合の存在を無視、分裂組合もこれに同調して御用組合化路線を突き進むという例も多くみられた。

しかし、労働委員会においては、全労連や純中立労組懇などでつくる民主化対策会議の決死の努力で、2008年に中労委30期労働委員へ全労連系の候補が任命されたのを筆頭に、東京や京都など、各地で全労連系の候補が任命されている。また、分裂組合を利用した全金などへの不当労働行為も、各地で救済命令が発出されるなどしている。

すなわち、いくら御用組合が会社と一体となってたたかう労働組合を無視、黙殺しようとしても、そうは問屋が卸さないということである。

企業内組合やその組合員たる職制からの妨害をものともせず、引続き組織化を推進！

回転寿司ユニオンは、このような企業内組合やその組合員たる職制からの妨害・工作をものともせず、引続き組織化をすすめている。回転寿司ユニオンはま寿司本部機関紙『Workers Unite!』第8号では、回転寿司ユニオンはま寿司本部の組織が10都道府県・12店舗・15人まで到達したことを報じている。引続き、労使関係の正常化を実現し、現場で懸命にはたらくクルーの要求が通る職場の構築のために、組織化を大胆に推進していく。

企業内組合へ申入れた事項（抄）

企業内組合へ申入れたのは、下記の事項である。別に無理難題をおしつけているつもりはないのだが...

- 1 同エリアマネージャーおよび同店長に対して、貴組合として必要な統制を取ること
- 2 店長職以上のすべての貴組合員に対して、業務中に他労組批判を行ったり、他労組への支配介入を行ったり、他労組組合員への不利益取扱いを行ったりしないよう、研修すること
- 3 店長職以上のすべての貴組合員に対して、業務外であっても、その職位を利用して又は使用者の意を受けて前項に掲げるような行為をしないよう、研修すること
- 4 同エリアマネージャー及び同店長の、貴組合内での職名（支部長、分会長、等）を明らかにすること
- 5 上記につき、本年11月12日（水）までに書面をもって回答すること